

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 2 区分
 【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2005-504797 (P2005-504797A)
 【公表日】平成 17 年 2 月 17 日 (2005.2.17)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-007
 【出願番号】特願 2003-528517 (P2003-528517)
 【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)
A 6 1 K 9/50 (2006.01)
A 6 1 K 31/502 (2006.01)
A 6 1 K 31/7052 (2006.01)
A 6 1 K 47/36 (2006.01)
A 6 1 P 27/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00
 A 6 1 K 9/50
 A 6 1 K 31/502
 A 6 1 K 31/7052
 A 6 1 K 47/36
 A 6 1 P 27/00

【誤訳訂正書】
 【提出日】平成 17 年 8 月 3 日 (2005.8.3)
 【誤訳訂正 1】
 【訂正対象書類名】特許請求の範囲
 【訂正対象項目名】全文
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

眼周囲または結膜下投与のための、薬理学的に許容される生体適合性ポリマー中に包埋されている活性剤を含んでなる眼用デポー製剤であって、該ポリマーがポリオールのパリラクチド - コ - グリコライドエステルであり、該ポリオールが少なくとも 3 つのヒドロキシル基を有し、分子量が 20,000 までである眼用デポー製剤。

【請求項 2】

ポリマーが該ポリオールの 40/60 から 60/40 ポリラクチド - コ - グリコライドエステルである、請求項 1 に記載の製剤。

【請求項 3】

該ポリオールがグルコースまたはマンニトールである、請求項 1 に記載の製剤。

【請求項 4】

該製剤が、純粋な活性剤のマイクロパーティクルを含んでなる、請求項 1 に記載の製剤。

【請求項 5】

マイクロパーティクルの外部表面が実質的に活性成分を含まない、請求項 4 に記載の製剤。

【請求項 6】

活性剤が溶解または分散し、製剤が液体である、請求項 1 に記載の製剤。

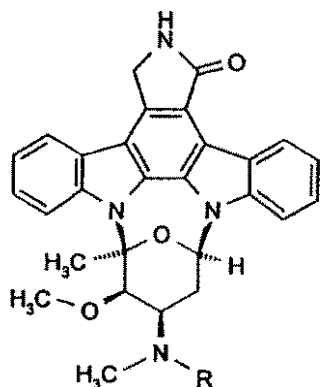
【請求項 7】

製剤が、注射後に注射部位でデポーを形成する、請求項 6 の液体製剤。

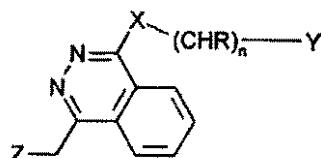
【請求項 8】

活性剤が式 (I) のスタウロスポリン、式 (II) のフタラジンまたは眼科的に許容されるそれらの塩であり、式 (I) および (II) は以下に定義の通りである、請求項 1 ~ 7 のいずれかに記載の製剤。

【化 1】



(I)



(II)

式中、
Rはベンゾイルである。

式中、
nは0~2であり、
RはHまたは低級アルキルであり；
Xはイミノ、オキサ、またはチアであり；
Yはアリールであり；そして
Zは非置換または置換ピリジル、
または1もしくはそれ以上のN原子が
酸素原子を担持する、定義の化合物の
N-オキシドである。

【請求項 9】

眼疾患の処置における使用のための、請求項 1 に記載の製剤。

【請求項 10】

該製剤が、有効量で長期間維持される活性剤を提供する、請求項 9 に記載の製剤。

【請求項 11】

活性剤が3ヶ月まで有効量にて維持される、請求項 10 に記載の製剤。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0015

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0015】

適当なポリマーとしては、

(a) ポリオール部分、例えばグルコースから放散する直鎖である、直鎖または分枝鎖ポリエステル、

(b) D - 、L - またはラセミのポリ乳酸、ポリグリコール酸、ポリヒドロキシ酪酸、ポリカプロラクトン、ポリアルキレンオキサレート、K r e b の回路、例えばクエン酸回路の酸のポリアルキレングリコールエステルなど、およびそれらの組合せ、

(c) 有機エーテル、無水物、アミド、およびオルトエステルのポリマー

(d) 有機エステル、エーテル、無水物、アミドおよびオルトエステルだけのコポリマー、または他のモノマーと組み合わせたコポリマー

(e) ポリビニルアルコール

が挙げられる。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 3】

脂質マイクロパーティクルに適した脂質封入剤としては、ホスファチジルコリン (P C)、ホスファチジルセリン (P S)、およびホスファチジルエタノールアミン (P E) のようなホスファチジル化合物、スフィンゴ脂質、セレブロシド、ガングリオシド、ステロイド、例えばコレステロールなどが挙げられる。